

第42回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

平成26年12月24日開催

第42回 新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

- ・日 時 平成26年12月24日(水) 19:00～20:10
- ・場 所 植苗ファミリーセンター

・議 題

- (1) 深夜・早朝時間帯の離着陸回数の変更に係る協議について
 - ①必要枠数について
 - ②住宅防音対策案について
 - ③地域振興対策案について
 - ④枠拡大に係る協議の進め方について
- (2) 前回の地域協議会における意見等について
- (3) その他

◎地域委員 出席者(19名) 欠席者(3名)

◎北海道(16名)

◎苫小牧市(8名)

1. 開 会

●苫小牧市(まちづくり推進室長) 皆様、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから、第42回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を開催いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております会議次第によって進めさせていただきます。

この後は着席で進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、植苗地区と勇払地区で委員が変更になっております。植苗地区はA委員からB委員へ、勇払地区はC委員からD委員へ、それぞれ各町内会から推薦があり、着任されておりますので、ご紹介いたします。

まず、植苗地区のB委員でございます。

●B委員 この度、会長が代わりましたので、私が引き受けることになりました。お寒いところ、知事さんにはご出席いただきまして、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

●苫小牧市(まちづくり推進室長) ありがとうございます。

続きまして、勇払地区D委員です。

●D委員 ろしくお願いいたします。

●苫小牧市(まちづくり推進室長) ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

2. あいさつ

●苫小牧市(まちづくり推進室長) それでは、会議に先立ちまして、北海道知事からご挨拶を申し上げます。

●北海道知事 皆様、こんばんは。

委員の皆様方におかれましては、年末の押し迫った中、何かとお忙しい中、とりわけ、今日はクリスマス・イブということでもございまして、ご予約のおありになった方もいらっしゃるのではないと思う中、こうやってお出席を賜りましたことに心からお礼を申し上げる次第であります。

皆様方におかれましては、これまでも、新千歳空港の24時間運用につきまして特段のご理解、ご協力をいただいておりますことに対し、心から感謝を申し上げる次第でございます。

先月になりますが、私自身が実際に航路下にお住まいの方々から直接お話を聞きしたいという思いを持ちまして、市長にご相談を申し上げましたところ、市長が快くお取り計らいをしていただきまして、地域の世話人の皆様方と意見交換をさせていただいたところでございます。その際には本当にお世話になり、ありがとうございます。

世話人の皆様方からは、地域の実情や今後の協議の進め方などについて、大変率直なご意見をお聞かせいただいたところでございまして、私といたしましても、地域の皆様方の思いを強く受け止めさせていただいたところであり、重ねてお礼を申し上げる次第であります。

その際もお話をさせていただいたのでありますが、北海道は、今、人口減少が進む一方で、外国人観光客が急速に増加し、いわゆる北海道ブランドはアジアを中心に大変な広がりを見せているところでございます。

このような中で、本道を将来にわたって発展をさせ、次の世代に着実に繋げていくためには、今あるこの追い風というものを十分に取り込んで、何としましても、経済と地域の活性化をしていかなければならないと、このように考えているところでございます。

このためには、国内外から寄せられるニーズや期待に応え、成長するアジアからの来道客の受け入れや新鮮な食の北海道ブランドの輸出拡大といったことが欠かせないと考えているところでございます。

こうしたことを実現していくためには、新千歳空港の機能強化が不可欠であり、とりわけ、深夜・早朝時間帯の発着枠の拡大ということは極めて重要と認識をしております。

北海道の空の玄関口でございます新千歳空港の発着枠拡大は、まさに、北海道経済を力強く牽引するエンジンの役割を果たし、将来の本道発展への大きな弾みになると確信をしているところでございます。

一方で、深夜・早朝時間帯の発着枠の拡大は、これまでも多大なご理解、そしてご協力をいただいております中、航路下の皆様方に新たなご負担をお願いすることになるものもあります。

私といたしましても大変心苦しく思っているところでございますが、皆様方の安全・安心な暮らしをできる限り確保するとともに、空港と地域との調和ある発展に資する環境対

策をしっかりと実施をしてまいる決意でございます。

本日は、皆様方のご意見を踏まえた住宅防音対策に関する再修正案のほか、地域の皆様方のご要望などを踏まえた地域振興対策案をお示しし、協議を深めさせていただきたいと考えているところでございます。

皆様方の忌憚のないご意見をお願い申し上げたいと思います。

よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きます、苦小牧市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市長 皆様、お晩でございます。

お忙しい中、しかも夜分にもかかわらず、委員の皆様にはご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

また、ただいま知事からご挨拶をいただきましたが、暮れの大変お忙しい中、お運びをいただきました知事にも厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

実は、数週間前ではありますが、知事からお電話をいただきまして、この12月24日のクリスマス・イブにこの地域協議会を開催する、大丈夫ですかとご心配のお電話をいただきました。知事としては、皆さんそれぞれご予定があるのではないかと心配されてのお心遣いでありました。私の方から全く心配ございませんと申し上げまして、今日、この地域協議会になっております。そういった今日のこの日、お時間をいただいておりますことを、重ねて厚くお礼を申し上げたいと思います。

同時に、常日頃でありますけれども、新千歳空港の24時間運用に関しまして、大変、皆様にご理解、ご協力をいただいておりますことに、改めて厚くお礼を申し上げます。

さて、ただいま知事からお話でしたが、本日は、前回の地域協議会の議論を踏まえまして、北海道の方から住宅防音対策の再修正案を改めて協議させていただくとともに、今、知事からお話がありましたが、新たに地域振興対策案をお示しするなど、皆様の意見や要望を丁寧に聞かせていただきながら理解を得られるよう努力をすると伺ったところでございます。

発着回数の増加によりまして騒音の加重が伴いますことから、航路下住民の皆様の生活環境が確保されることを前提として、住民の皆さんが納得した上で枠の拡大ができるよう、市としてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

改めて委員の皆様へ地域協議会開催に対するお礼と協議に対しますご協力を心からお願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議 題 (1)

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、3の議題に入らせていただきます。

継続協議事項の（1）深夜・早朝時間帯の離着陸回数の変更に係る協議についてを議題

といたします。①必要枠数について、②住宅防音対策案について、③地域振興対策案について、④枠拡大に係る協議の進め方についてを一括して議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 資料につきましては、私から説明をさせていただきます。

座って説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

最初に、必要枠数についてであります。これまでの地域協議会で説明させていただきましたポイントを改めて整理させていただきました。

発着枠拡大の必要性についてですが、外国人観光客の増加、格安航空会社であるLCCなどの新規参入といった航空を巡る情勢変化を踏まえるとともに、道の重要政策である食の北海道ブランドの強化を図るためには、新千歳空港の機能強化、とりわけ深夜・早朝時間帯の発着枠拡大が必要と考えております。

発着枠の拡大によりまして、時差のある海外からの観光客の受入体制の強化や機材をできるだけ稼働させるというLCCのビジネスモデルへの対応、さらには、食の北海道ブランドを航空ネットワークを通じて国内外に流通させる体制整備が進むこととなります。

こういった新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大による国際拠点空港化が北海道経済の活性化を力強く推し進めることとなります。

2ページをご覧ください。

新千歳空港が競争力のある国際拠点空港として必要となる枠数は、エアライン・ニーズの24枠に国際線誘致のための6枠を加え、30枠と考えており、これにより、深夜・早朝時間帯の発着枠は成田空港並となります。

その効果は、乗降客数が年間115万人増加することにより、特に、国際線利用者が40万人増加するほか、経済波及効果は年間261億円と道内最大の冬のイベントであるさっぽろ雪まつりに匹敵する経済波及効果があると予想しており、発着枠拡大が活力ある本道経済を牽引していくものと考えております。

また、この経済波及効果は、北海道全体だけではなく、苫小牧市では年間約20億円の効果があると試算しております。北海道への空と海の二つの玄関口を有し、国内外への交通アクセスの良さが産業立地を推進する上での強みとなっております苫小牧市は、深夜・早朝時間帯の発着枠拡大による新千歳空港の機能強化により、さらにその強みを増すものと考えております。

3ページをご覧ください。

30枠への拡大を地域の皆様にご理解いただくため必要となる対策をまとめております。

1点目は時間帯制限であります。現行の6枠にプラスする24枠につきましては、2時から24時及び6時から7時の時間帯での運航とさせていただきます。

2点目として、この後、説明させていただきますが、住宅防音対策は、前回の地域協議

会でお示しした上限額を撤廃し、防衛省並みに実施させていただきます。

3 点目として、地域振興対策は、地域と空港との調和した発展のための振興対策、あるいは、住宅防音対策の補完として実施させていただきたいと考えておりますので、30 枠への拡大につきまして、皆様のご理解をお願いしたいと思います。

4 ページをご覧ください。

住宅防音対策案の再修正について説明させていただきます。

住宅防音工事の内容として、工事の種類は、経年住宅、新規住宅、建替住宅に対するものの3点です。

最初に、経年住宅に対する防音建具機能復旧工事として、平成6年の6枠合意に基づき防音工事を実施した住宅を対象に、防衛省に準拠して上限額を設定せずに防音サッシの取替を行うほか、必要に応じて原状復旧を行います。

また、住民の皆様の中には、防音サッシの取替に代えて内窓を設置したいとの希望もあると伺っておりますので、希望があれば、そのように対応させていただきます。

次に、新規住宅に対する住宅防音工事として、新たに定める区域指定日までの住宅に対し、防衛省に準拠し、必要な防音工事を行います。

また、経年住宅や新規住宅の工事対象住宅を建て替える場合には、新たな工事に代えて、通常仕様と防音仕様の差額を助成します。

5 ページをご覧ください。

前回8月の地域協議会でお示した案との比較をさせていただきましたが、変更点について補足説明させていただきます。

右側2段目の経年住宅の防音建具機能復旧工事の防音サッシについてですが、防衛省と同様に取替を行い、その材質はアルミサッシ、樹脂サッシのどちらでも可能ですが、道内では樹脂サッシが主に取付けられております。

なお、防衛省が設置しております防音サッシは、空気層を挟んで5ミリと4ミリの複層ガラスの樹脂サッシで、サッシ部分に鉄芯が入った特注品ですが、サッシの遮音性能のレベルはT2を満たすものであることから、道におきましては、特注品ではありませんが、T2の基準を満たす市販品の樹脂サッシを設置する考えです。

また、既にしっかりとした遮音性能のある樹脂サッシが設置されている住宅で取替を希望されない方、または、ご都合により防音工事にあまり時間や手間をかけたくない方につきましては、遮音効果の向上が見込まれる内窓の設置に代えることも可能とさせていただきます。

ただいま説明した経年住宅の防音サッシにつきましては、新規住宅と建替住宅についても同様とさせていただきます。

7 ページをご覧ください。

地域振興対策案について説明させていただきます。

地域振興対策につきましては、当初、地域要望を把握させていただいた上で、それらの

事業の中から、道と市が、この度の枠拡大による地域振興対策として実施するにふさわしい事業を地域協議会でお示しすることとしておりました。

しかしながら、前回8月の地域協議会で、委員の皆様から協議を進展させるために地域振興対策案の提示を受け、いわゆる3点セットで検討を行いたいとのご意向を受けたところであります。その際、道からお示しする対策案は、各地区の地域振興を図っていく上で必要となる事業を道と市において検討し、提案させていただき旨を申し上げたところではありますが、この度、提案させていただきます事業は、いずれも、各地区あるいは広域的な観点から、将来の振興、発展へと繋げていくための核となる事業としてお示しさせていただきます。

最初に、植苗地区についてであります。公営住宅の整備とは、道営住宅を建設し、植苗小中学校の児童・生徒数の維持・確保や、定住人口の増加を図ろうとするものであります。

道の駅関連施設の整備とは、湖畔に展望デッキを整備し、利用者がウトナイ湖の自然環境をより親しめるようにすることで、ウトナイ湖周辺の活性化を図るとともに、野生動植物の生息地と観光客などの棲み分けを行うことで、自然環境の保全を図ろうとするものであります。

冷暖房機器等の設置とは、この度の住宅防音対策区域内の経年住宅を対象に、新たに冷暖房機器等の設置を行おうとするものであります。

住宅建設が可能となる区域拡大の検討とは、植苗中央町内会において、住宅を建てることが可能となるエリアを新たに設定することを検討し、定住人口の増加を図ろうとするもの、の4点であります。

次に、沼ノ端地区についてであります。複合施設の整備とは、人口が急増している沼ノ端地区に、児童センターや多目的スペース、行政窓口などの複合的な機能を持つ拠点施設を整備し、沼ノ端地区を中心に、広域的な活性化を促そうとするものであります。

文化交流施設の整備とは、沼ノ端鉄南地区に新たな文化情報を発信する施設として図書などを整備し、地域のコミュニティ活動を促そうとするもの、の2点であります。

次に、勇払地区についてですが、総合福祉会館の改修とは、総合福祉会館を大規模に改修し、地区のコミュニティ施設の機能拡充を図り、地域内のコミュニティ活動のより一層の活性化を促進しようとするもの、の1点であります。

以上、7つの実施事業などを地域振興対策案として提案させていただきますが、いずれの事業についても、整備内容等の詳細につきましては、枠拡大への同意をいただいた後、市を通じて地域の皆様のご意見、ご要望をお伺いしながら、地域の実情に沿った内容に精査させていただき考えであります。

8ページをご覧ください。

枠拡大に係る協議の進め方について説明させていただきます。

今年2月から具体的な協議をスタートさせていただいたところであり、本日の地域協議

会は、上から4段目の住宅防音対策の再修正案及び地域振興対策案を提示というところになります。

今後の協議の進め方ではありますが、30枠の必要枠、住宅防音対策案、地域振興対策案につきまして、本日の地域協議会で委員の皆様として一定のご理解をいただけるということであれば、これらの3点の内容により、各地区としても枠拡大にご理解をいただけるか検討をお願いしたいと考えております。

なお、各地区での検討に当たり、必要があれば、道主催の説明会等を開催させていただき、これまでの協議の経過や内容を説明させていただきます。

道といたしましては、次回以降の地域協議会での協議の進め方につきましては、各地区での検討を踏まえ、改めて地域世話人と相談させていただきたいと考えております。

説明は以上です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けいたします。

どなたかご意見等ございますでしょうか。

E委員。

●E委員 どうもお晩でございます。

簡単に説明があったわけですが、ご存じのように、私たちは、エアカーゴ委員会というものがございまして、これは、皆さんご存じのように、横路知事が新千歳をエアカーゴ基地にすると、こういうことから発足しまして、ここにいるメンバーは、みんなそちらの方から出てきている地域代表でもございます。そういう意味で、あれから何十年か経ったのですけれども、未だ名称はエアカーゴ委員会ということでやっております。

話せば長くなるわけですが、省略いたしまして、今回のことに関しましては、それなりに地域代表の皆さんとはお話ししておりますが、重要なことは、それぞれ各地域でもって5つの町内会で検討していただくか、そういうような格好で、もう一度これを地域に持って帰りまして、よくご理解していただきたいと。今までも、そういうふうにご皆さんと話をしながらやってきております。そういうことで、今回も少し時間をいただいて進めていきたいなど、こういうことでございます。よろしくお願いたします。

これは、私の地域ですからね。誤解のないようにしてください。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいま、各地域で今日提案のあったことはまた持ち帰って、少し時間をもらいたいという内容でございました。

ほかにどなたか。

F委員。

●F委員 今日のために、18日に、6町内会の役員に呼びかけして、北海道と苦小牧市から来ていただき、説明をいただきました。その中で、参加者から、この7点のほかに、地域で要望があれば追加をしても良いような説明だったのではないかとということが出まし

て、今の説明を聞きますと、この7点に対して、各地区で協議をするということのようにも聞こえるんですけども、その辺はどういうことなのでしょう。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 北海道の方でよろしいですか。

●北海道（交通企画監） 今日は、ありがとうございます。

今、F委員のさらなる要望への対応があるのかというようなご質問でございますが、地域振興対策といたしましては、現時点では今の案でご検討をしていただきたいと、このように考えているところでございます。

●F委員 わかりました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいですか。

ほかにございますか。

G委員。

●G委員 ちょっとくだらないような質問をさせていただきます。

この枠拡大によって、従来の遅延便を起こしている航空会社が、さらに22時ぎりぎりの発着便を設定して、どんどんどんどん0時まで、24枠の中に遅延便の便数も増えてくるような懸念があるんですけども、そこら辺、何か対策、いわゆるぎりぎりの既存の航空便の時間をもう少し繰り下げて、22時から少し遠ざけて遅延を起こさせないような対策をとるとか、そういうことはお考えになっていきますか。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいま、遅延便の関係のご質問でございました。お願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 遅延便につきましてであります。昨年度、平成25年度におきましては、年間で499便の遅延便が発生しているということで、皆様方には大変なご迷惑をお掛けしており、大変申しわけなく思っております。

今年度の状況をちょっと申し上げますと、11月末現在でありますけれども、昨年245便に対し、今年は217便という形で、28便、大体1割程度落ちている状態です。ただ、今後、12月から翌年の2月まで、この冬場が非常に遅延便が発生してまいりますので、引き続き、私どもとしては、まず、今の段階での遅延便の解消にも引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

また、枠拡大後ということでもありますけれども、今、遅延便という形で、22時ぎりぎりに路線が張られているものにつきましては、この便がそのまま深夜・早朝時間帯に来るのか、あるいは新しい便を設定するのかという状況、これは航空会社さんの方の判断にはなりますけれども、あまり今度はぎりぎりにならないような形でセッティングはされてくるのかなと思っております。

特に、旅客便が、主に、枠拡大をされますと就航されてくるのだらうと思うのですけれども、交通アクセスの関係が非常に大きく問題になってまいります。今、航空会社さんの方からも、大体23時頃の到着便、あるいは出発便、この辺がこれから検討していきたいのだというご意見もありますので、そういった意味では、今の枠が拡大されてまいります

と、今の遅延便の状況につきましては大分改善されてくるのではないかなと思っております。

ただ、いずれにしても、全くなくなるわけではありませので、引き続き苫小牧市の航空機騒音対策協議会でも色々とエアライン回りをしていただいておりますけれども、私どもとしても、各エアラインに対して強く申し入れをしたり、あるいは、直接指導をするのは国交省さんになりますので、こちらの方にも強く申し上げていきたいと考えているところであります。

説明は以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

●G委員 わかりました。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにございますか。

H委員。

●H委員 直接、これに対しての防音とか地域振興対策ではないのですけれども、冒頭、E委員の方から、このメンバーはエアカーゴからずっと引き続いてのメンバーの方が多いという話が出たものですから、あえて言おうかなと。

ご存じのとおり、横路知事時代に、エアカーゴ構想、当時とはとくに30万トン運ぶという話が、今、多分、3千トンだと思うんですね。その当時も、随分、私どもの苫小牧の地域の効果だとか、北海道全体の、ある意味ではバラ色の話をされていたんですけれども、結果的には、あの構想が頓挫したと。今回は、先ほど知事の方から枠拡大による効果というお話、狙いということでお話をいただいたんですけれども、どうも、決まってしまうと、その後の動きが、エアカーゴの時にも僕らはひどい目に遭っているものですから、どうも、いまいち、道の取組が弱いのかなという思いをするものですから、再度、その点についてお話をお聞かせ願いたいんですけれども。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ただいまの件につきましてお願いいたします。

●北海道副知事 いつもお世話になっております。

ただいま、H委員から、過去の経過を含めてお話があったところでございまして、エアカーゴのプロジェクトは、まさに北海道を挙げてやっていこうということで色々な取組があったわけですが、その後の経済情勢等もございまして、また、委員から今お話のあったようなこともあったのかなと考えております。

今回の枠拡大をお願いしている部分につきましては、先ほど、局長の方からも申し上げましたけれども、既に非常に大きなニーズが来ているということもございまして。

また、貨物便につきましても、知事の冒頭のお話にもございましたが、北海道の食に対する期待も大きくて、昨年、一昨年から、かなり北海道の食品の輸出も増えてきております。

そういう意味では、まさに食と観光で北海道を活性化していくというこの道を何とかし

なければならぬという思いを私どもは非常に強く持っておりますので、ただいまのよう
なご懸念がないように、しっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろし
くお願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいですか。

●H委員 はい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） E委員。

●E委員 今、H委員から出たから、また申し上げますけれども、知事とこうやって正式
な会合でお会いするのは初めてかなと思うんですけども、2回目になるのか、エアカー
ゴのほかに延長問題がありましてね。これについて、あの時、堀さんの時にずっとやって
まいりまして、延長しなければ何か仕事が進まないような説明がずっとありました。

ところが、別になくても、枠を拡大して、そして、安全・安心に飛べるような状況にな
っているのではないかなど。ですから、そこら辺のところは、今、H委員も言っていたん
だけれども、道の試算とか何だとかかんだとか言っても、やっぱり、なかなかどうなるの
だろうという疑心暗鬼というのが地域にあるのは間違いないわけです。

しかし、北海道の活性化、道央集中と言えども、北海道を引っ張っていくのはこの道央
しかないと思いますから、地域の人たちはそれぞれご協力しましょうという気持ちにはな
っているところでございます。

ただ、もう一つ懸念事項は、昨年、一昨年と、今出ました遅延便の関係でそれぞれ民間
会社に行ってまいりましたけれども、今年、それぞれお聞きしましたら、深夜便をどのよ
うに使うんですかと言ったら、ある航空会社は、いや、今のところ考えていませんとい
うようなことの返事もあるわけですし、どういうことなのかなど。遅延便関係の解消が一つ、
それはそれで置いて、いずれにしても、今言われたように、しっかりと長い期間かか
ってこれから進もうという時に、今言われたように、しっかりと対応して生かしていただ
きたいと、こう思っております。よろしくお願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

しっかりと対応してほしいということでございますけれども、これについてはよろしいで
すか。

●北海道副知事 はい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしくお願いいたします。

ほかにご意見はございますか。

I委員。

●I委員 知事さんには、今日、お寒い中、ようこそお越しいただき、お礼を申し上げた
いと思います。

8ページの件で伺いたいと思います。

この機能強化で苦小牧側で言われている3点セットの振興策まで示していただきました。
この後、どの位の時間をかけて最後までいくのかなど。大体、この3つが提案されて、こ

ここで異論がなければ、ほとんど決まることですがけれども、町内に持ち帰って、どの段階でこれを確認するというのを北海道は考えられているのかと思います。

なぜかと言いますと、この問題は、私の感覚では、6年余り機能強化をやってきました。合意をしない限りは前に進まないという振興策も提示されているわけですがけれども、我々も、今限りで、各町内はわかりませんが、植苗だけを見ますと、役員改選があります。だから、年度内にある程度調印までこぎつけるのか、その後までかかって、地域で説明を受けてから、また新たに協議会の中で再確認をするのか、そこら辺を具体的にお示しいただければと思う次第です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

今後のスケジュールにつきまして、北海道の方からお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） ただいまの、いつまでに合意をしていくのか、あるいは、どのように協議を進めていくのかといったご質問でありますけれども、まず、私どもが今回お示しをしました3点セットでのご提案であります。本日の地域協議会で委員の皆様にご理解をいただければありがたいと考えております。

また、一定のご理解をいただけるということであれば、これら3点の内容で各地区としても枠拡大にご理解をいただけるか検討をお願いしたいと考えているところであり、私どもとしては、希望的な発言になりますけれども、できるだけ早目に合意をしていただけるように結論を出していただければありがたいと考えております。

また、その結論の出し方でもありますけれども、次回の地域協議会を開いた中で決めていくのか、あるいは、違う形で決めていくのかということにつきましては、改めて地域世話人の皆様方とご相談をさせていただきながら進めていきたいと考えているところであります。

●I委員 それでは、もう一度確認しますけれども、今日は42回ですけれども、43回の地域協議会の前にも世話人と相談した中で決めていくということで認識してよろしいですか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 地域の皆様方からの検討がどういった形でお示しをいただけるのかということ、まず世話人の方々とも相談をさせていただき、その方法が、次回の地域協議会になるのか、あるいは、そうではなくて、各地区の方から文書で合意をしていただけるという形で出していただけるのか、その方法は、私どもの方から指定をするということではなくて、地域の皆様方のご意向を踏まえながら検討をしていきたいと考えております。

●I委員 その中で、これ以上付け加えることはないということでしたので、そうしたら、これを良いかどうかだけを検討するということがよろしいですね。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） そのようにお願いいたします。

●I委員 はい、わかりました。

●北海道副知事 ちょっと補足いたします。

ただいま、局長から申し上げたわけでございますが、冒頭のご発言で、E委員からもそれぞれ植苗地区の話もされました。地区それぞれのご事情もございましょうから、そういったことも私どもとしてはあくまでも丁寧にやりたいということを基本にいつも持っていたいなと思っております。

できるだけ、先ほど申しましたように、航空ニーズもございますので、できるだけ早くという思いはございますが、そういった丁寧さを忘れずにやっていきたいと思っております。

また、地区の中でお話の中で色々いただいたご意見がありますれば、そこについては、また苫小牧市さん、あるいは世話人の方々とよくご相談しながら進めさせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。

J委員。

●J委員 今日、この天気が悪くて路面の非常に悪い時に、知事さんがこの地区を思いやって出席していただいて、あのよう親切丁寧にご説明をいただいたことは、道民の一人として心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、6月でしたか、北海道民の本当にまたとない、待つて待つて待ちわびた位の新幹線が北海道まで乗り入れていただいて、さらには試運転までなされたことは、これも知事さんを始めとする北海道の交通を担当する方々のお力だと思います。これも重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

それで、本題に入らせていただきますが、道庁さんも苫小牧市さんも持ち帰り、持ち帰りと言うけれども、私は持ち帰る必要はないと思っております。春の総会で全部委嘱を受けているんです。今年は、特にこういうことがあるよということで4月の総会で受けていますから、そうすると、我々は何のために来ているんだと、こうも言いたくなります。ですから、この任期中は、やっぱり、今日ここに出た人方が、心が一つになったら、ここで知事さんに大筋合意でどうぞというぐらい皆さんで話し合うことがこの協議会の本心ではないですか。

私は、大東亜戦争に1年8か月、自分の身を国に捧げた人間です。ですから、これから10代、20代、30代、40代の方に、皆さんが美点を残してあげなきゃなりません。理屈を言う前に、これだけ道庁さんも譲歩をしていただいている以上、ここでそういう方向にやっぱり話し合っていくのが苫小牧の誇りだと思います。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

ほかに何かご意見、ご質問はございますか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ご意見がなければ、今、J委員の方から、とても貴重な、我々に対して、地域協議会の思いを言っていただきましたけれども、この場では、今、色々ご意見を聞きましたけれども、特に反対という話はございませんでしたけれども、

一定の理解はしていただいたということでJ委員の話はございましたけれども、そういうような形で、一度、やはり地域に持っていくということでお話しさせていただいておりましたので、地域での検討を今一度していただいて、今後、協議の進め方については、地域の世話人の方と相談させていただきながら進めていくということではいかがでしょうか。

J委員。

●J委員 今、司会の方から言っていたことでもわからないわけではありません。ですけれども、来年の4月は統一選挙の年に入ります。そうしたら、この問題はもう吹っ飛んでしまいます。せっかく北海道が力を入れて、北海道民のためにと力を入れているものに答えを出すのであれば、1月に地域協議会をもう一度開いてもらわないと、この問題は解決していきません。

私は、マイクを借りて長くなるかも知れませんが、エアカーゴの時、まとめてあげたのが、この植苗町内の私の時です。その時は、私は、連合町内の会長であり、地域協議会の会長でもありました。それで、千歳が平成6年2月28日にやったので、それが6時のニュースを聞きまして、5人の反対でやっぱりだめになったよということで、Kという助役さんでお辞めになった方が、Jさん、今年は何としてでも千歳も決めるんだから苦小牧も決めてちょうだいよとよく言われていました。私も千歳でお仕事もさせてもらっていたので、そういう中で、それはそうしなきゃなりませんねと言って、私も、色々反対する委員の人方の根回しもやらせていただいて、そして、平成6年3月、11時から、この会館ではなく、その前にあった会館に、勇払の人も、沼ノ端の方も、植苗の人も全部集まってお話を11時から、今でも忘れません、2時45分まで、お昼ご飯も食べさせないでやりました。そうしたら、こんな会議あるかと、ご飯も食べさせないでどうするんだと随分言われました。今でも脳裏を過ります。

だけれども、私は、昔、好きで行ったわけではありませんけれども、国のために働かせてもらった者として、うちの部隊長は水筒に水一杯汲んで来いと、たったキャラメル1つ、それを私は重機関銃でしたから、16貫もある重機関銃を担いで、その演習を3日間やらせてもらいました。それでも今日あるわけですから、やっぱり物事は鍛えないとだめだと思います。

私も、この年になっても、まだどこも悪くありませんし、薬も飲んでいません。ただ、お酒は皆さんよりは飲んでいないかも知れません。

ですけれども、ここでみんなが、委員が真剣になったら、良い答えを出してあげられるんでないですか。どうですか。

私は、千歳も本当にまとめられないところだなと思っている中で、苦小牧だけはやっぱりまとめて差し上げる。全部聞いてくれると言うんだから、これ以上のことは何もないと思うね。

どうだい、会長、どうしても頑張るつもりかい。通してあげてよ。通した方が良いんだ。通せる時に通すの。会長、どうだい。

●L委員 J会長の言うとおりで良いですよ。

●J委員 良いでしょう。皆さん、植苗が全部良いと言ったら、沼ノ端あたりは反対できないんだ。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

H委員。

●H委員 私どものこの協議会は、従来もそうでしたが、やはり、航空機騒音の一番の影響を受ける植苗の意向を大事にしようということでこの協議会は進んでまいりました。そういう意味では、今日提案をされました防音は最終案ということで出てきていますから、そこら辺については、多分、色々なご協議があったのだろうということで推察をする次第なんですけれども、ただ、Jさんに分かってもらいたいのは、今日、初めてここで3点セットに値する地域振興対策というのが、前回、今度、それをテーマにするという話が出て、初めてこの場で出てきたんですね。

我々としては、初めて今ここで聞いたわけですから、これを全然協議をしないというのは、正式な話は初めて来ているわけですから、そこは十分理解してもらわないと、それぞれのやっぱり地域地域の立場があって、冒頭に言いましたように、植苗のことについては、私どもも十分尊重しています。だから、一定の理解はしていますよ。ただし、それじゃ植苗のほかに全然協議しなくても良いという話にはこれはならない。そこら辺は十分やっぱり勘案して進めてもらわないと、私どもも、多分、勇払さんもそうだし、沼ノ端のほかの町内もそうだと思うんですけれども、ぜひそこら辺はよろしくお願いします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） M委員、どうでしょうか。勇払、何か今のこの件に関しまして。

●M委員 勇払単独のことを話せというんだったら、大卒としては了解したいとは思っていますけれども、ただ、勇払の場合は、若干、ほかの2地区と環境的な影響も違いますから、私どもがこれで良いですよと簡単に言えないのではないかなと思っています。ですから、あくまでも植苗さん、沼ノ端さんの意向が優先されるんだろうというふうには思っています。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

N委員、お願いします。

●N委員 実は、先日、私の町内会でエアカーゴの会合をやりました。その時に項目が出ていたのは2つだけです。ということは、今、この7ページにあります住宅建設が可能となる区域の拡大の検討という文言がなかったんです。

今日、この寒い中、クリスマス・イブでもありますのに、知事が来て、誠にご苦労さんだと思いますけれども、実は、知事が北海道の14振興局に人口を増やすよという文言が新聞に載っていましたが、人口を増やすということは、家を建てなきゃ人口は増えないんです。植苗は、調整区域で、正直言って、40年間、ろくに家が建っていない

んです。調整区域でないところにはぼちぼちと建っているんですけども、この区域拡大というのは、調整区域の中でも家が建てられるという格好でやっていただけるのかなというふうに、今、正直言って思っているんです。というのは、調整区域が千歳までぎりぎりまでいっていますので、そこら辺のところは少し、どういうふうになるのかなと。

今、Eさんとも、南の会長も賛成で良いんじゃないかと言われたんですけども、もうちょっとそこら辺のあれがあって、良いですよということは、ちょっとどういうふうに持っていつてくれるのかなというのが一つの私の不安なところなんですけれども、正直言って、これだけ4つも書いていただいたので、これは良いなというふうに、多分、苫小牧市さんは家をうんと建てられるように、今まで建てられないところも建てられるようにしてくれるのかなと、そういうふうに思っていたところなんですけれども、そういうふうなことを道も頭に入れて、苫小牧市が、家が建てられないところにもぼんぼん建てさせていただけるという格好であれば、中央町内会としては、こんな良いことはないのではないかと思います。幸い、南さんも北さんも賛成しているので、そこら辺を中央としては十分に考えていただきたいなと、そんなふうに思っています。どうですか。

●O委員 北は賛成とは言っていませんよ。

●N委員 ということです。目下勉強中なんで、もう一回、持ち帰るということですね。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 今、整理させていただきますけれども、今、J委員の方から、この場で大筋合意するというので良いのではないかというお話しでしたが、やはり、J委員の話は十分皆さんご理解しているけれども、今までの関係、今日、正式には初めて聞いた部分もあるし、一度、町内に持ち帰るといのご意見がございました。それに関しまして、J委員、ご意見があればお願いいたします。

●J委員 この位のことを言わないと新聞さんは良く書いてくれません。やっぱり、マスコミさんを本当に我が方に向けながら、そして、1月か2月に地域協議会をしまして、その時にきちんと返事をもらえるのだというぐらいの雰囲気を作ってあげたくて私は言っています。だから、その辺まで持っていかないとマスコミさんはちゃんと書いてくれないんだ。ほかの街のことを言うてはいけませんけれども、ああいう姿を見ている以上は、知事さんにまでお越しいただいて、これだけの男のメンバーが集まって、全部、総会で責任をもらっている人方だから、もっともっと良い答えは出せるはず。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 市長、お願いします。

●苫小牧市長 色々ご意見をいただきまして、ありがとうございます。

一つだけ考えてください。この地域協議会が6年間開催されない期間がありました。6年ぶりに開催されたのが2009年であります。現在の問題とは別な問題でありました。千歳も苫小牧も歴史的に色々な経過の中で、この地域協議会は大変ご苦勞をいただいてきたわけでございます。

そこで、今、今日初めて3点セットを提示させていただきました。特に反対の意見はなく、しかし、本当にこれで良いのかということについて、それぞれの地域でもう少し時間が欲しいという趣旨の意見もございました。あるいは、Jさんの方からは、状況、これまでの経過ということ踏まえて、できるだけ早く苫小牧としてしっかりと紳士的な決着を見るべきだという趣旨のご意見もございました。

そこで、ご理解をいただければ、それぞれの地域で事情が違います。経過も違います。再度、今日のところはここで切り上げて、もう一度、地域の中で皆さんにお話しするような状況が必要であればやっていただいて、1月中を目途に改めて世話人の皆さんとご相談をさせていただき、最後の地域協議会のお呼びかけをさせていただくという日程で、もしご理解をいただければ、そのような方向で今日は締めさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。（拍手をする者あり）

ありがとうございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） O委員。

●O委員 今、苫小牧市長が言われましたけれども、地域振興対策案についてですけれども、次回の協議会でもう少し具体的な中身が知りたいと思うのですけれども、その辺を具体化してご説明できるようにお願いしたいなと思います。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

地域振興策につきましては、苫小牧市と北海道とともに、先ほどから副知事も話しておりますけれども、丁寧な説明を心掛けて進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、先ほど市長の方からお話があった方向で、この件につきましては、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

それでは、（1）の①から④の議案につきましては、そのようにさせていただきます。ありがとうございます。

3. 議 題（2）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは次に、報告事項に移ります。

（2）前回の地域協議会における意見等についてを議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

●北海道（航空局参事） 座って説明させていただきます。

9ページの資料2をご覧くださいと思います。

この資料につきましては、千歳市の委員からいただきました新千歳空港の2本の滑走路、A滑走路とB滑走路の使用頻度について、1か月のトータルで示してほしいというご意見

でございました。

通常、A滑走路につきましては離陸、B滑走路につきましては着陸とされておりますが、滑走路の効率的な運用ですとか、あるいは、航空機の安全運航上、状況に応じた運用となっております。

この表でございますが、コンター調査で設定条件として使用しました平成24年度の滑走路使用実績でございます。この表をご覧になっていただくと、A滑走路については6万8,359回、そして、B滑走路についてはトータルで5万3,572回と、それぞれ割合で言いますと56.1%対43.9%ということで、離着陸の合計ではA滑走路の方が若干多い状況となっております。

なお、その下の表になりますが、滑走路の苫小牧側と千歳側の離着陸の状況を見ますと、A滑走路につきましては、離陸が苫小牧側、千歳側とも圧倒的に多くなっておりまして、B滑走路につきましては、着陸が千歳側、苫小牧側とも圧倒的に多くなっている状況でございます。

このような数字を示してほしいというご意見でございましたので、資料2としてまとめさせていただきます。

説明は以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告につきましてはご了承いただいたということにいたします。

次の（3）その他でございますけれども、北海道から何かございますか。

北海道の方からは特にないようですけれども、皆様の方から、その他で何かございますか。

F委員。

●F委員 時間も遅くなっておりますが、今回は30枠の件の協議会ということで集中しておりますが、以前のJRの南進、または第2ビルの話、そういうことも忘れないで知事さんに頭の隅に置いて、今日、いつ着工するとか、そういう話はできないでしょうけれども、苫小牧としては経済効果も含めて非常に大きい事業だと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ご意見として承りました。

ほかにはございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） なければ、最後に、知事、よろしくお願いいたします。

●北海道知事 本日は、皆様方からそれぞれ大変貴重なご意見、ご提案をいただいて本当

にありがとうございました

横路知事時代からのお話、あるいは堀知事の時代の話、そして、これまでの経緯など、様々な厳しいご指摘も頂戴をいたしたところであります。

私から、改めて、地域の皆様方に対して、これまでの経緯について本当に申しわけなく思っていることをお伝え申し上げなければならない、そのように思った次第であります。

そして、その上で、今、改めて様々な、いわゆる3点セットという形での新たな提案もさせていただいたところであり、また、最後に、市長の方から、今の提案を持ち帰って、できれば1月中を目途ということで、次の地域協議会が開けるように世話人の方々と調整をしたいというご提案があり、そのような方向で拍手をしていただいた委員もいらっしゃることで、大変ありがたく思っているところでございます。

私ども道といたしましても、必要な追加的なご説明はしっかりやらせていただいて、今、市長が最後におっしゃったような形で今後が進むように、できる限り努力をしてまいりたいと思っておりますので、皆様方の引き続きのご理解、ご協力を心からお願いを申し上げます。

本当に、本日は遅い中、年末のこの時期に、誠にありがとうございました。

4. 閉 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 本日は、貴重なご意見、また、活発な議論をしていただきまして、ありがとうございます。

これをもちまして、第42回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了させていただきます。

次回の協議会ですが、近くなりましたら、また世話人の方々を通じまして皆様にご案内させていただきます。

本日は、大変お疲れさまでした。ありがとうございます。

以 上